

日本保健医療社会学会ニューズレター (No.130) 2025/1/13

目次

1. 第51回大会について
2. 第51回大会演題申込等のご案内
3. 第3回理事会報告
4. 定例研究会の報告・告知(関東)
5. 定例研究会の報告・告知(関西)
6. 看護・ケア研究部会報告・告知
7. 渉外・国際交流活動の告知
8. 「保健医療社会学を学べる研究者」情報の募集
9. シンポジウム情報等のメール配信・学会ホームページ掲載希望について
10. 会員著作情報のメーリングリストでの配信(試行)について
11. 編集後記

1. 第51回大会について

第51回大会は、長崎大学医歯薬学総合教育研究棟(長崎大学坂本キャンパス2)で開催いたします。開催日時は2025年5月24日(土)-25日(日)です。メインテーマは、“Health and Medical Sociology in Motion: 「越境」をさぐる”としました。このメインテーマには、単に国や地域の境界を越えるという意味だけではなく、異なる学問領域の境界、当事者と研究者の境界等を越えて、ダイナミックな保健医療社会学を構築しようという意味を込めました。

本大会では、例年通り一般演題やRTD(Round Table Discussion)を行うほか、以下の企画を予定しています。

1. 大会長講演

- 演者: 平野 裕子(長崎大学)
- テーマ: 「保健医療社会学における『越境』をさぐる」

保健医療社会学の来し方とこれからを、「越境」をキーワードに再考します。物理的な距離、社会的な立場、文化的な違い等を越えることで、どのように新しい価値観や学問領域を創出することができるかを考えたいと思います。

2. 記念講演

- 演者: Pham Duc Muc(ベトナム看護協会長)
- テーマ: 「ベトナムにおける介護者研修プログラム実施の可能性と課題」

ベトナムは、2017年に高齢化率7%に達し、2034年には14%になることが予測されるなど、高齢化の進展は日本(24年)よりも早く進んでいます。これに対応するためベトナムは日本やドイツに対して看護師や介護職を送り出すことで、高齢者ケア先進国のシステムを学んできました。ただし、日本のように介護保険制度がないベトナムでは、誰が介護や介護者の養

成にかかるコストを負担するのか等の大きな課題があります。また、日本のような介護施設がほとんどなく、家族介護が中心のベトナムでは、日本の介護システムをそのまま持ち込むことが困難です。高齢化と経済発展という二つの課題に同時に対処していかなければならないベトナムが、日本から何を学び、何を自分たちで構築しようとしているかをお話いただきます。

3. シンポジウム

- 演者：小川全夫（九州大学名誉教授）、Susiana Nugraha（University of Respati Indonesia 講師）、伊藤尚子（京都府立医科大学准教授）
- 指定討論者：佐伯みか（順天堂大学講師）
- テーマ：「アジアの目を通して日本の介護を問い直す」

高齢化は、今や日本のみならず、世界的な現象です。グローバル化の今日、介護人材の「越境」にならび、介護スキルの「越境」にも注目が集まっています。これは日本での介護労働者の働き方や介護保険制度が、日本国内はもちろんアジアをはじめ世界でどのような評価を受けるかということを考えなければならない時代になってきたことを示しています。本シンポジウムでは、日本と世界の高齢化介護認証基準の調和化や、外国人介護労働者を通しての日本の介護技術のアジアへの移転の可能性の観点、そして日本人とともに老いてゆく在日外国人高齢者やその介護者の目を通して、日本における介護労働の在り方を再検討します。

本大会では、登壇者を除き、事前申し込みに関り Web 参加も受け付けます。詳細につきましては、ホームページをご確認ください。一般演題、RTD の募集期間は、2024年12月3日から2025年1月17日です。また、参加申し込みは2025年2月15日以降を予定しております。なお、参加者の方ご自身で交通機関や宿泊の予約をしていただきますが、大会ホームページからも予約リンクを貼っております。参加申し込みの際は、長崎市内における宿泊を予定しておられる方（帯同者を含む）に、宿泊者名ならびに宿泊日を把握するためのアンケート（任意）を取らせていただきますのであらかじめお知らせいたします。このアンケートで得られた情報は、本大会開催に際し、長崎国際観光コンベンション協会の「コンベンション開催補助金」に応募する目的のみに使わせていただきます。よろしくご理解のほどお願いいたします。

詳細は、下の QR コードから大会ホームページにアクセスしてご覧ください。



第 51 回日本保健医療社会学会大会ホームページ (<https://jshms-conference2025.jp/>)

(第 51 回大会長：平野裕子 [長崎大学生命医科学域保健学系])

2. 第51回大会演題申込等のご案内

第51回日本保健医療社会学会大会は、2025年5月24日(土)・25日(日)の両日、長崎大学坂本キャンパスにて開催されます。「Health and Medical Sociology in Motion 「越境」を探る」を全体テーマとしています。

先日の会員一斉メールにてお知らせした通り、第51回大会の演題等の申込が開始となりましたので、申込期間を併せてお知らせいたします。多くの皆さまのお申し込み、およびご参加をお待ちしております。

一般演題申込期間：2024年12月3日(火)～2025年1月17日(金) 23:59(受付厳守)

RTD申込期間：2024年12月3日(火)～2025年1月17日(金) 23:59(受付厳守)

演題等申し込みの詳細は以下の大会ホームページに記しておりますので、検討しておられる方々はこちらをご参照ください。

<https://jshms-conference2025.jp/>

会員の皆さまの積極的なご参加を心よりお待ちしております。

(三井理事：研究活動担当)

3. 第3回理事会報告

以下の通り、2024年度第3回理事会が開催されました。

日時：2024年12月17日(火) 9:00～11:00

会場：ZOOM 会議

出席者：金子会長、石川理事、田代理事、海老田理事、三井理事、美馬理事、平野理事、井口理事、樫田大会長(第52回)朝倉監事、黒田監事、事務局 平野(記 国際文献社)

欠席者：松繁理事、佐藤理事

1) 第51回大会報告(第51回大会長)

平野第51回大会長より、大会概要、予算案修正について報告があった。参加費支払いは、例年通り、演題発表申込の後に参加登録をしてからとした。

2) 第52回大会について(第52回大会長)

樫田第52回大会長より、9月9日に松繁理事、伊藤美樹子会員と会議を行ったこと、近隣大学の協力を得て実行委員会を組織し、アルバイトも募る予定であることが伝えられた。交通アクセスの関係で、懇親会は開催しない予定であることが報告された。

3) 編集委員会報告(編集理事)

田代理事より、35巻2号と36巻1号の編集状況について報告があった。35巻2号は原稿の遅れにより、1ヶ月程度刊行が遅れる予定であることが伝えられた。

4) 国際文献社への事務委託契約(編集含む)について(総務理事)

石川理事より、次年度契約書・覚書の変更点について説明があり、承認された。編集業務委託契約書・覚書については変更がないことが伝えられた。

5) 2024年度 前期予算執行状況(総務理事)

石川理事より、前期予算執行状況の説明があった。特に問題なく、順調に執行されている。

6) 研究活動委員会報告 (研活理事)

三井理事より、第51回大会の準備状況について報告があった。一般演題及びRTD申込フォームの管理費として3万円を2025年度予算に計上することとした。

関東定例研究会は、12月15日に開催され盛況であった。2月15日に第51回大会連動企画として関西定例研究会を開催する予定である。

7) 看護・ケア研究部会の報告 (松繁理事)

特になし。

8) 渉外・国際交流活動の報告 (渉外・国際理事)

平野理事より、GEAHSSの動向について伝えられた。GEAHSS加盟学協会ジェンダー比較調査依頼について事務局より回答することとした。

9) 園田賞選考委員会について (研活理事)

三井理事より、今年度は三井理事が担当することが報告された。

10) 名誉会員推挙について (学会長・総務理事)

金子会長より、推挙要件の1つである70歳以上で会長経験者または理事・監事通算10年以上務めた会員は該当者なしとの報告があった。推挙要件の1つである社会的評価を高める功績及び学会の発展に特段の功績を挙げた会員について提案があり、打診を進めていくこととした。

11) 役員選挙について (学会長・総務理事)

金子会長より、選挙管理委員候補として、山田富秋会員と溝田友里会員に依頼することが提案され、承認された。

12) ニューズレター130号の件と一斉配信の対象範囲について (広報理事)

井口理事より、ニューズレター130号の原稿締切を1月6日とすることが伝えられた。会員からの新刊情報のメール配信については、試験的に月1回程度、まとめて配信することとした。Xの利用再開については次期へ引き継ぐこととした。

13) 入退会者の承認について (総務理事)

石川理事より、入会者10名の承認依頼があり、全員承認された。退会1名、逝去2名の報告があった。

14) 大規模災害への対応ガイドライン案について (学会長)

金子会長より、大規模災害対応ガイドライン案について説明があった。大会校により対応が異なるため、基本的には大会校の裁量とし、申し送り程度に留めることとした。

(石川理事：総務担当)

4. 定例研究会の報告・告知 (関東)

1) 関東定例研究会報告 2023年度第1回 (報告)

日時：12月15日(日) 13:30~16:30

会場：大妻女子大学千代田キャンパス G棟 G525

司会：松繁卓哉（追手門学院大学）・牛山美穂（大妻女子大学）

報告者：浜田明範（東京大学）

テーマ：「感染症が駆動する科学と社会：パラ医療批判の人類学に向けて」

討論者：伊藤嘉高（新潟大学）・三枝七都子（杏林大学）

社会学や人類学は、生物学とは異なる観点を保健・医療・福祉の領域にもたらしてきた。だが、単に生物学を批判的に捉えかえすだけでいい時代は、終わりを告げつつある。その批判的な潜勢力を活かしつつ、それでいて批判にとどまらずにいま必要なことを探るとしたら、どのような形があり得るのか。コロナ禍という未曾有の経験を前に、この点に取り組んでこられた浜田明範さんのお話を伺うことで、保健医療社会学の将来を見通していきたい。

今回の定例研究会では、浜田さんから近著『感染症の医療人類学——ウイルスと人間の統治について』（青土社）を中心に、人類学における存在論的転回とその意味について解説していただき、パラ医療批判という独自の観点について話していただいた。パラ医療批判は、ポピュリズム的医療批判から脱し、生物医療の全否定ではなく、わずかなりとも現状の改善を目指す姿勢である。さらに covid-19 の経験をどう捉えかえしたらいいのか、具体的な論点を挙げながらご説明いただき、パンデミック下で多くの実験が課せられた中で私たちは何を学ぶのか、ウイルス・都市・人間・環境といった概念の更新が求められていることなどが提起された。

その上で、伊藤さんと三枝さんからは、浜田さんの本の詳細な読み込みとともに、ケア倫理やキュア／ケア図式における「ケア」とは大きく異なる、非規範的な「ケア」概念が持つ意味や領域について、「実験」との重なり、「統治」との違い、あるいはそれらを研究者自身の姿勢に当てはめたときにどう考えたらいいのかなど、理論的にも踏み込んだコメントが出された。また、フロアからも「人間」についてどのように捉えているのかなど、踏み込んだ質問がなされ、それらに対して浜田さんからは、自身の発想や理論体系について説明がなされることで、さらに議論が深まった。

総じて、大変刺激的な議論がなされた場であり、参加者の方々が持ち帰ったものはとても大きかったことと思う。対面での参加は 12 名、オンラインでの参加は 38 名だった。

2) 関東定例研究会第 2 回（告知）（再掲）

日時：2025年3月1日（土）13:30～16:30

場所：明治大学駿河台キャンパス グローバルフロント 3F4031

キャンパスマップ https://www.meiji.ac.jp/koho/campus_guide/suruga/campus.html

報告者：大島岳（明治大学）・小西優実（東京大学大学院）

タイトル：「セクシュアル・マイノリティをめぐる医療」

討論者：新ヶ江章友（大阪公立大学）・志水洋人（名古屋大学）

司会：松繁卓哉（追手門大学）・三井さよ（法政大学）

（三井さよ：研究活動担当理事）

5. 定例研究会の報告・告知 (関西)

2024年度第1回関西定例研究会を大会連動企画として看護・ケア研究部会と共催で開催いたします。

第51回大会連動企画 (関西定例研究会／看護・ケア研究部会／立命館大学生存学研究所共催)

- 日時：2025年2月15日 (土) 14:00～17:00
- 場所：立命館大学 朱雀キャンパス 303号室+Zoomによるハイブリッド
- テーマ (仮)：「外国人介護職の見た日本の介護」
- 話題提供者：

アブドゥラー コマルディン (社会福祉法人健正福祉会 特別養護老人ホームカサブランカ 海外事業推進部 ※インドネシア出身介護職)

エカ (医療法人健正会 介護老人保健施設はまさき3 海外事業推進部 ※インドネシア出身介護職)

石川 和寛 (医療法人健正会 介護老人保健施設はまさき3 介護士長)

- 指定討論者：奥島美夏 (天理大学)・益加代子 (大阪公立大学)
- 司会：本多康生 (福岡大学)・坂井志織 (淑徳大学)・細野知子 (日本赤十字看護大学)

本研究会は、第51回大会 (2025年5月24日 (土)～25日 (日)、平野裕子大会長、於長崎大学医歯薬学総合教育研究棟) の連動企画として開催する。第51回大会のテーマは、「Health and Medical Sociology in Motion: 「越境」をさぐる」である。

日本とインドネシアの間でEPAに基づくインドネシア人看護師・介護福祉士候補者の受入れが開始されてから15年以上が経ち、日本の介護施設でリーダーとして活躍するインドネシア出身介護職が出てきている。

本研究会では、豊富な介護経験を持つインドネシア出身介護職アブドゥラー・コマルディンさん、エカさんと、同僚である石川和寛さんに、「外国人介護職の見た日本の介護」をテーマにご報告いただき、日本の介護の現状を多面的に考察していくための手がかりとしたい。

さらに、指定討論者は2名の方をお願いしている。インドネシアの専門家で、EPAのインドネシア人介護職を中心にフィールドワークを進めてこられた奥島美夏さんには、文化人類学の視点からコメントしていただく。インドネシアからのEPAによる介護福祉士候補者受け入れを通じて日本のケア現場の考察を進めてこられた益加代子さんには、看護学の視点からコメントしていただく。全体討論では、国境を越えた人の移動や、多様なエスニシティの働き手によって構成された共生的なケアの場が持つ実践的意味を学際的に位置づけなおした上で、外国人介護職が日本の介護現場に与えてきた影響を文化的社会的な違いを超えて議論していきたい。

Zoomアドレス：

<https://ritsumeai-ac-jp.zoom.us/j/92729427927>

ミーティングID: 927 2942 7927 (美馬理事: 研究活動担当)

6. 看護・ケア研究部会の報告・告知

1) 第1回研究例会報告

日時: 2024年7月27日(土)14:00~17:00 (オンライン開催)

【報告者第1席】

発表者: 須賀郁子 (章佑会 やすらぎの里 北小岩)

タイトル: 「博士論文 (ホームレス支援の医療人類学的研究——ハウジングファースト東京プロジェクトに関わる医療者たちの眼差しの変化) の形成過程を振り返る」

ホームレス状態にある人の中には精神や知的の障害を抱えていることが明らかにされても、医療者による研究は限定的で議論されてこなかった。「見えない人」と言われる人が増える中、池袋でホームレス支援活動をする支援者たちは7団体が協働するプロジェクトを立ち上げた。支援困難層と呼ばれ、安定した住まいを持たない人がアパートで生活できるように、「精神科・内科クリニック」と「訪問看護ステーション」を開設し、医療者たちはハウジングファーストやオープンダイアログの思想を取り入れた支援をはじめた。その医療者たちの語りを中心にエスノグラフィーとしてまとめたのが博士論文の内容である。

発表後のディスカッションを経て、改めて考えたことがある。開発人類学者の指導教授からは「看護を一度捨てなさい」と言われてきたが、博士論文完成までの6年間は、自分自身がパラダイム転換する(看護から社会科学の視座を得る)のに必要な歳月であった。看護学に人文社会科学の知見は必要である。今回発表し議論できたことで、学んだことをどのように社会に還元していくのか真摯に向き合う勇気をいただいた。このような発表の場があることに感謝を申し上げたい。

【報告者第2席】

発表者: 末武友紀子 (日本赤十字看護大学大学院)

タイトル: 「看護師の被抑圧者集団 行動」の概念分析

「看護師の被抑圧者集団行動」概念の先行要件、属性、帰結を明らかにし、概念の定義を開発することを目的とした研究論文を報告した。本研究は、先日開催された第50回日本保健医療社会学会大会で発表したものである。論文投稿予定であるため、当該概念への印象や論文全体への忌憚ない意見を求めて議論した。その結果、看護師の歴史を遡り概念を論じているため、現代ではミスマッチな部分がある、あまり使われていない概念を概念分析の手法にはめ込む限界があるという意見があった。看護界で当該概念をうまく活用するための考察を丁寧に論じることの重要性が確認され、そのためには概念分析の方法に即した現在の論文スタイルを見直すことが提案された。報告者としては、臨床の具体事象を絡めて丁寧に多方向から説明すること、看護師集団に当該概念を使うにはどうしたらよいか、どのように活用すれば看護が良い

方向に向かうかという視点で述べることで、中動態で考察した内容には、時間の経過や歴史の移り変わりの中で変化する当該概念のポジティブな側面も表現すること等、貴重な示唆を得た。そして、本研究への関心と、現在の看護師が置かれている状況を説明できる概念であるという心強い言葉が励みになった。

2) 第2回研究例会報告

日時：2024年9月14日(土)14:00～17:00 (オンライン開催)

発表者：齋藤貴子 (日本赤十字秋田看護大学)

タイトル：「動いていくを支えるいつも看護実践の現象学的記述」

本報告では、論文投稿に向けて全体像を示しつつ、参加者より多層的な意見をいただいた。整形外科や運動器看護の「言語化しづらい」看護実践をいかように記述するかにこだわっていたのだが、そもそも言語化しづらいことよりもいかに身体を介した看護実践がなされているかに重きを置くことに気づくことができた。またセラピストが行う訓練とは一線を画し、いつもの日常なかで患者が動いていくことを支える看護実践にこそ運動器看護の専門性が潜んでいる指摘もあった。さらに「みまもる」看護実践の内実を開示することにもつながるとご意見をいただけた。日常生活の水準で立つ、歩くを支えることの意義は、超高齢化社会において必須の視座であり、患者の移動の尊厳を保つことにもつながると再確認できた。またこの部会を踏まえ現象学的記述ではあるのであるが、身体論からさらに考察を発展させたいと考えている。

3) 第3回研究例会報告

日時：2024年12月21日(土) 14:00～17:00 (オンライン開催)

【報告者第1席】

発表者：細野知子 (日本赤十字看護大学)

タイトル：「塔本シスコ作品の看護的解釈—創作の湧きあがりと生活との関連に着目して(仮)」

本稿は、48歳で患った病いを契機に91歳の生涯を全うするまで精力的な創作活動をやり抜いたアウトサイダーアーティスト、塔本シスコの作品を看護的に解釈する試みである。病跡学、看護学、現象学の枠組、方法を参照して作品と生活・人生との関連を読み取り、看護的に解釈することを目指している。用語の選択、研究方法論、解釈の仕方など、多くのことを模索しているため、参加者とのディスカッションによっていくつかの方向性を見出すことができた。また、明確にするとよい論述のポイントも明らかになった。本論文は再投稿に向けたものであり、発表を通じて貴重な示唆を得ることができた。

【報告者第2席】

発表者：福永憲子 (岡山商科大学法学部 PhD 研究員)

タイトル：「パンデミック時の面会制限と、医療者—患者家族間のコミュニケーションの再

考」

本報告は、今日まで続く医療機関・老人保健施設等における面会制限について、科研費研究の一部として報告したものである。今回の報告では、面会制限を行っている経緯と現在までの状況を踏まえ、ELSIの視点から課題を抽出し検討を行った。社会の側を感染リスク群と捉え、入院患者を非感染者として想定した状態における長期的かつ、漫然とした隔離状態は、倫理的にも法的にも十分な検討・再考を要するものであるが、社会にもその人権侵害にも抵触し得ない状況を許容する空気感がある。本報告では、5類の現在、次回のパンデミック時に生かすことができる面会方法の構築についても行っている。また、面会制限に付随する問題として「患者と会えない家族」とのリスクコミュニケーションのあり方をCDCに批准して行う必要性と、そして、看護師のsufferingに対する研究について数少ない先行研究を紹介させていただいた(鷹田2021、福永2025刊行予定)これらはコロナ下の看護師の苦悩の研究に十分に役立つものだと考えている。本報告は、面会制限に関して総括を行うべく研究であり、進行中の研究の一部を発表したものである。発表後は貴重なご意見を頂戴でき感謝している。

(松繁理事：研究活動担当)

7. 渉外・国際交流活動の告知

以下の関連学会が開催されます。

- International Sociological Association (ISA) 5th ISA Forum of Sociology

開催日時：2025年7月6日-11日

場所：モロッコ王国ラバト

学会紹介：国際社会学会。学派や学問的接近手法、イデオロギーを超えて、全世界の社会学者のネットワーキングを行う。

2025年 Forum of Sociology 大会ホームページ：

<https://www.isa-sociology.org/en/conferences/forum/rabat-2025>

(平野理事：国際・渉外担当)

8. 「保健医療社会学を学べる研究者」情報の募集

本学会では会員からの自主的な提供によるデータに基づき「保健医療社会学が学べる研究者」のリストを作成し、学会ホームページ上に掲載いたしております(<https://square.umin.ac.jp/medsocio/list-researcher.html>)。このリストに掲載をご希望の方は、上記ページにある「掲載情報」(Excelファイル)にご記入の上、学会事務局までメールでお送りください。常勤であることや研究室を持っていることは、情報を掲載する条件ではないので、非常勤教員の方もどうぞ情報をお寄せください。掲載内容は毎年度末に掲載継続・更新のご要望をお尋ねし、掲載継続の希望が示されたもの以外は年度末で削除します。なお、すでに掲載をされている方で、情報の変更や削除を希望される方は、事務局までお知らせください。

(井口理事：広報担当)

9. シンポジウム情報等のメール配信・学会ホームページ掲載希望について

会員や学会外部機関から事務局へお寄せいただく学会外部のシンポジウム等の情報につきましては、会員に関連する情報を選択してニューズレター配信メールやホームページにて記載させていただきます。ただし、メール配信やホームページ更新に対する委託料が発生するため、できる限りまとめて行う関係上、ご連絡が開催または申込締切まで1ヵ月を切る場合には配信・掲載が間に合わない場合があります。あしからずご了承ください。

(井口理事：広報担当)

10. 会員著作情報のメーリングリストでの配信（試行）について

会員の著作情報のメーリングリストでの月に一度程度の配信を2月より試行的に開始いたします。原則としましては、配信時期から概ね1年以内程度に発刊された会員執筆（共著含む）・編集の新刊を対象に、著者・编者からの希望を広報担当理事で取りまとめて配信いたします。配信したい著作情報がある会員は下記のフォーム（メーリングリストでフォームのリンクを配信予定）に月末までに情報を記載して送信してください。初回締切は1月末日となります。

<https://forms.gle/WqqisutiEiadqALG7>

(井口理事：広報担当)

11. 編集後記

ニューズレターNo.130では、第51回大会の続報についてお届けしました。大会長からの大会テーマの詳細と、それに基づく大会長講演、記念講演、シンポジウム等の説明の他、自由報告・RTD申込情報も掲載されています。情報はホームページにも順次反映してまいります。その他、大会連動企画を含めた定例研究会開催情報も掲載しておりますので積極的にご参加ください。日本保健医療社会学会ニューズレターは、No. 92からPDFファイルのメールマガジン形式で配信しています。また学会ホームページ (<https://square.umin.ac.jp/medsocio/>)でも公開しています。

(井口理事：広報担当)

発行：日本保健医療社会学会	編集：広報担当（井口高志）
学会事務局：東京都新宿区山吹町 358-5	アカデミーセンター
jshms-office@as.bunken.co.jp	TEL：03-6824-9375